

NO.	質問内容	回答内容
Q1	箱部の接着を二回以上に分けて行っても良いか。	箱部の接着を2回以上に分けて行うことは可能です。ただし、2回以上に分けて接着を行う場合は、選手はその都度、接着作業を開始したい旨を競技委員に申し出てください。
Q2	脚部の三枚継ぎ（幕板）は手加工必須となっている。この文章だと三枚継ぎのオスは手加工必須、メスは機械を使っても良いと解釈できるがそれで良いか。	脚部上部の三枚接ぎは、幕板（台輪）のオス加工、ならびに脚のメス加工の両方を手加工してください。ご指摘のとおり、課題文面が分かりづらい表現となっていますので、後日、修正版を公表します。なお、当該箇所で「三枚接ぎ（幕板）」と表現しているのは、脚部「上部」の三枚接ぎは手加工、「下部」の通しほぞは機械加工が可能という意味です。
Q3	ステーの取り付けで（蓋の最大開き角度90°の位置にステー取り付け）と書いてあるが、ステーの遊び分で90°より傾いても良いのでしょうか？	蓋を最大角度まで開いて「手を離れた状態が90度」となるようにステーを取り付けてください。その状態で取り付けると、蓋を閉じる際などに、ステーの遊び分だけ、厳密には90°より大きく開くことが可能となりますが、あくまで「手を離れた状態が90度」という仕様であると理解してください。
Q4	丁番（蝶番）の取り付けで箱部に付ける時、しゃくりの深さは箱部背板の上部と平らに（蓋部も同様）付けなければならないのですか？そうすると蓋部と箱部の間に隙間が出てしまいます。	丁番は、箱部と蓋部を「隙間無く」閉じることが出来るように取り付けてください。公表図面では、丁番を想像線（二点鎖線）で描いています。蓋と背板に「両掘りして丁番を取り付ける」というのが重要な要素です。公表図面に描かれている取り付け位置や掘り込み深さは、あくまで目安として見て頂き、選手が、家具製作として適切な仕様を判断してください。
Q5	立式作業台の上に持参した板を敷いてもよろしいですか。	作業精度や作業効率を上げるために、木材（無垢材・集成材・積層材等）を素材とした板を立式作業台の上に敷くことは認められています。ただし、課題の支給材料と同材であるもの、あらかじめ当て止めが取り付けられたもの、当て止めを取り付けるための下穴があげられているもの、寸法や作業工程のメモ書きが記されているもの等は使用を認めない場合もありますので、注意してください。
Q6	引き出しの手じゃくりについてですがU溝ビットで掘っても良いですか？	引き出しの手じゃくりは「寸法は指定されていないが、形状は指定されている」と理解してください。工具として「U溝ビット」を使用することは認めますが、その場合、さらに加工を施して、課題図面で指示されている形状どおりの手じゃくりとする必要があります。
Q7	ステーの中心を閉じた状態で90度にした時にステーの中心が遊びで開いたりして安定しないのですが手を離れた状態とは普通に開けた状態でステーの中心が開いていたならそこで90度を測りますか？それともステーの中心が閉じた状態で90度を測りますか？	蓋を開き、ステーの中心鋺の所で「ベースが閉じた状態」が90度になるように取り付けてください。質問者の言う「ステーの中心が閉じた状態」というのが、それに当たると思います。

NO.	質問内容	回答内容
Q8	JAGで「接合部における隙間の有無、目違い、接着剤のはみ出しがないかを審査する」とありますが、検査時に、目違いを取る前に提出するという事でしょうか？	JAGの項目に挙げている「目違い」は、「目違いが無いように仕上げられているかを審査する」という意味です。つまり「目違いを取った後」の状態を提出する、と理解してください。
Q9	Q&AのQ6に対する質問です。 引き出し手じゃくりの形状は指定されているということですが、図面では手じゃくり溝の底は平になっています。ということは、溝の底は平にしなければいけないということによろしいでしょうか？	はい、質問者の言うとおりに「溝の底は平」にしてください。